

I 結果の解説

第1章 地域別価格差

この章では、小売物価統計調査（構造編）（以下「構造編」という。）の地域別価格差調査等から作成した消費者物価地域差指数の結果を用いて、地域間の物価水準の違いを解説する。消費者物価地域差指数とは、各地域の物価水準を全国の物価水準を100とした指数値で示したものである。

構造編の地域別価格差調査は、地域間の価格差を把握するため、小売物価統計調査（動向編）（以下「動向編」という。）を対象とする全国167市町村と重複しない88市において、地域により価格差が見込まれ、かつ、家計消費支出のウエイトが大きい56品目の小売価格を調査している。

この章の構成は以下のとおりである。

第1節では、都道府県間の物価水準の違いを解説する。

第2節では、各地方間の物価水準の違いを解説する。

第3節では、都市間の物価水準の違いを解説する。

1 都道府県別の物価水準

(1) 総合指数

- ◆ 物価水準が最も高いのは東京都，最も低いのは群馬県及び宮崎県
- ◆ 東京都の物価水準は，群馬県及び宮崎県に比べて7.9%高い

平成27年平均消費者物価地域差指数（全国平均=100）の「総合」を都道府県別にみると，東京都が104.0と最も高く，次いで神奈川県（103.5），埼玉県（101.7），兵庫県（101.1），山形県（100.8）などとなっている。

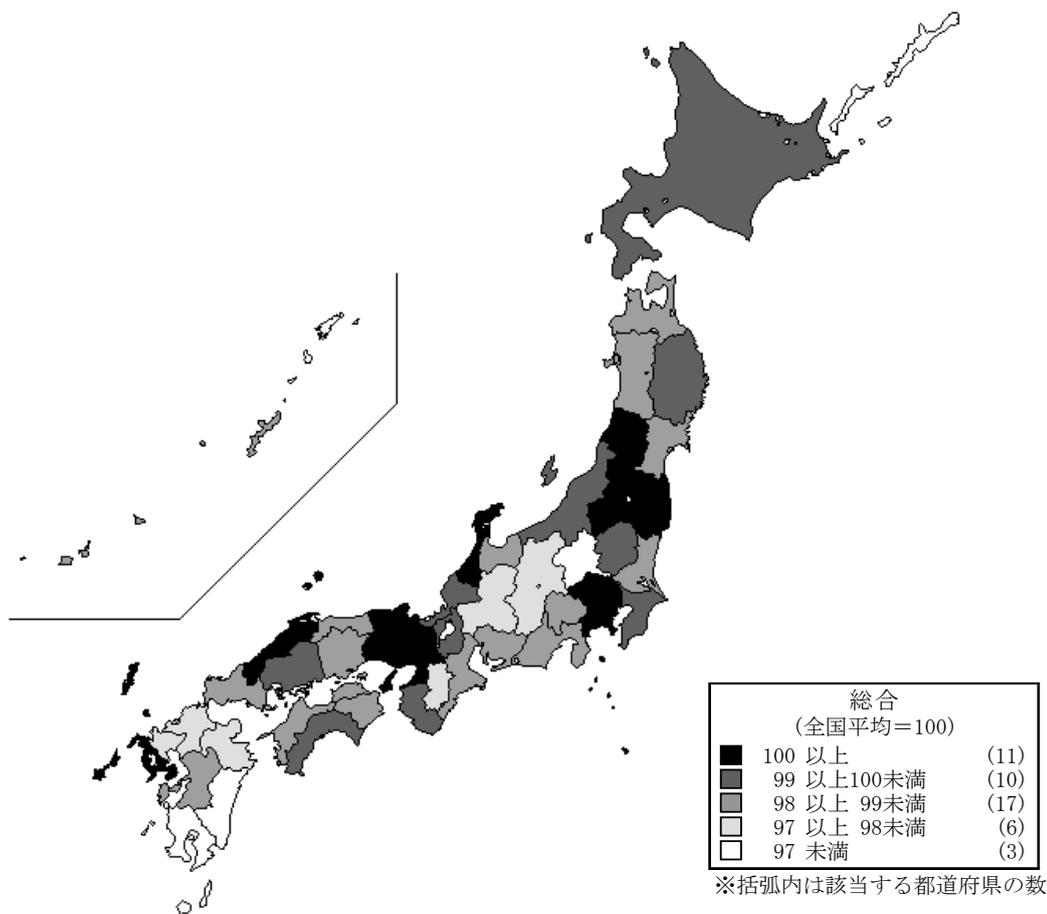
一方，最も低いのは群馬県及び宮崎県（共に96.4）で，次いで鹿児島県（96.7），岐阜県（97.0），佐賀県（97.2）などとなっている。

最も高い東京都は最も低い群馬県及び宮崎県に比べて，7.9%^(注)高くなっている。

(図1-1，図1-2，表1-1)

(注) $\frac{\text{高い指数} - \text{低い指数}}{\text{低い指数}} \times 100$

図1-1 都道府県別消費者物価地域差指数（総合）（全国平均=100）



※本報告書の注意事項

消費者物価地域差指数における「総合」及び「住居」は「持家の帰属家賃」を含まない。

图 1-2 都道府県別消費者物価地域差指数（総合）（全国平均=100）

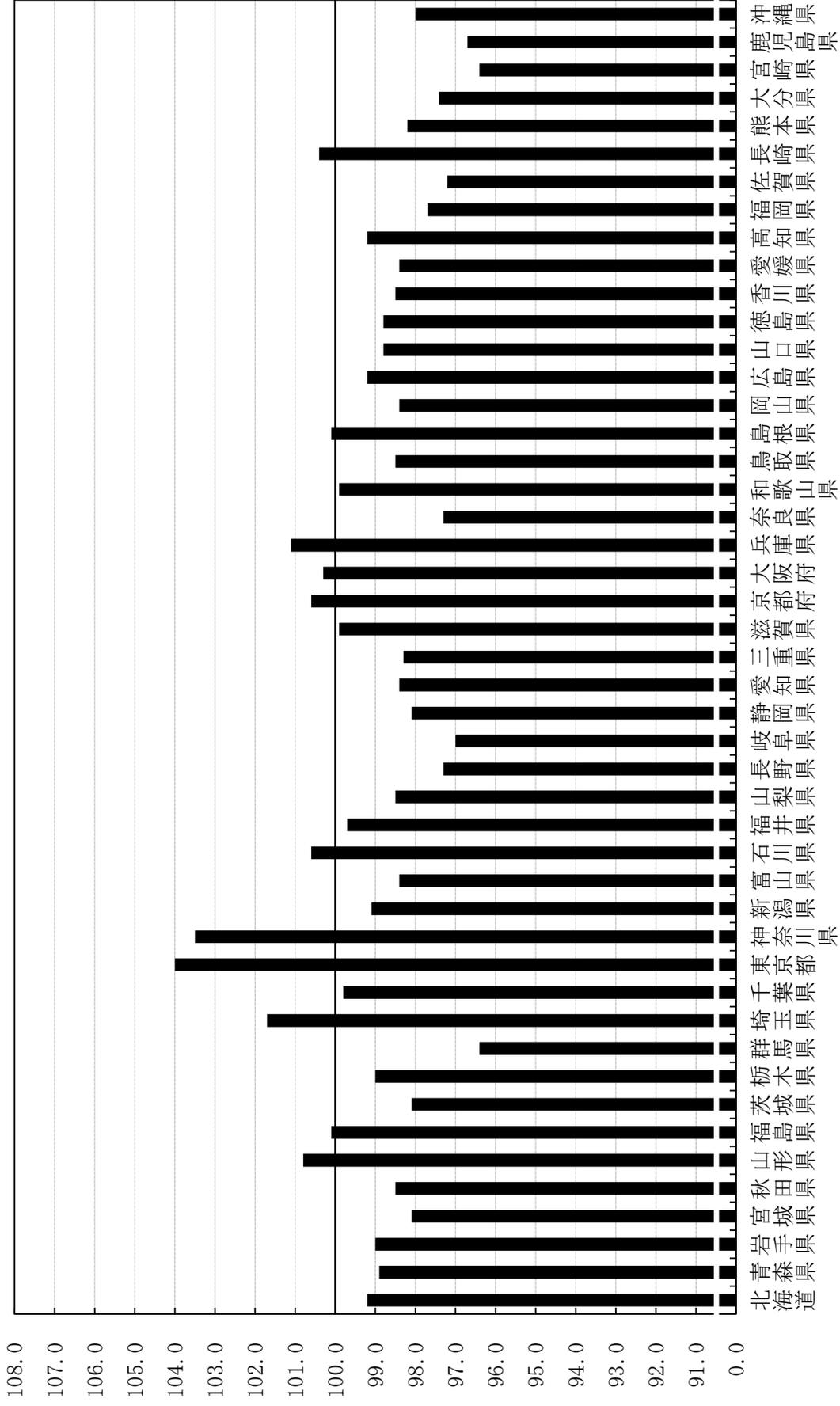


表 1-1 都道府県別消費者物価地域差指数（10大費目別）（全国平均=100）

都道府県	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費	(参考) 家賃を除く総合
北海道	99.2	99.0	82.7	112.4	99.3	107.6	99.9	98.8	94.3	97.7	101.0	100.3
青森県	98.9	98.5	95.4	107.1	95.7	97.7	101.7	100.7	93.4	95.7	96.8	99.5
岩手県	99.0	97.5	94.9	109.6	101.1	98.9	100.5	99.8	90.2	98.2	97.4	99.6
宮城県	98.1	96.8	95.8	101.0	101.9	94.0	100.6	98.1	98.7	99.5	99.3	98.4
秋田県	98.5	97.2	96.3	104.4	103.4	100.5	99.1	98.4	86.3	98.1	99.9	99.0
山形県	100.8	102.0	93.2	109.5	94.4	106.6	97.6	99.7	104.9	98.8	97.9	101.4
福島県	100.1	99.8	97.4	108.1	101.9	106.6	99.9	99.3	90.3	96.1	102.7	100.7
茨城県	98.1	99.1	97.7	104.2	94.0	96.9	98.8	98.2	88.6	95.1	101.2	98.4
栃木県	99.0	99.3	92.5	98.2	100.0	115.6	99.7	98.5	101.3	95.7	99.9	99.5
群馬県	96.4	98.4	91.5	92.4	94.8	102.0	101.9	97.8	79.3	96.5	98.2	97.2
埼玉県	101.7	100.7	111.5	94.8	101.6	101.7	100.5	100.8	103.6	104.8	100.6	100.9
千葉県	99.8	99.9	99.0	101.9	100.4	93.4	101.1	99.7	97.5	101.8	99.7	99.8
東京都	104.0	103.0	128.0	96.5	102.6	98.5	101.2	102.6	109.1	104.1	99.4	102.1
神奈川県	103.5	102.2	118.5	99.5	100.5	100.5	97.9	103.9	112.4	102.9	102.0	102.5
新潟県	99.1	100.2	93.5	97.3	99.4	103.0	99.5	99.2	96.1	99.6	100.8	99.5
富山県	98.4	100.2	92.4	99.2	99.4	99.2	99.8	98.4	85.3	97.3	102.6	98.9
石川県	100.6	103.3	89.7	100.4	100.9	104.2	102.3	100.7	100.0	98.2	101.1	101.2
福井県	99.7	103.2	91.4	90.8	112.1	97.1	102.9	99.6	109.0	95.2	102.0	100.2
山梨県	98.5	99.9	95.9	96.0	100.0	103.3	97.6	99.7	87.6	97.9	100.1	99.1
長野県	97.3	94.2	90.7	101.0	96.5	102.7	98.3	100.4	94.2	97.8	101.8	98.0
岐阜県	97.0	97.0	84.6	94.8	94.0	102.0	99.8	100.7	92.2	98.1	99.6	97.7
静岡県	98.1	99.5	91.5	97.8	99.9	97.5	100.8	100.1	79.9	100.2	99.9	98.5
愛知県	98.4	98.6	92.3	97.7	98.0	99.7	100.2	98.6	96.6	100.8	98.5	98.7
三重県	98.3	99.5	91.7	98.7	98.6	98.0	99.5	99.3	98.6	96.7	98.7	99.0
滋賀県	99.9	99.1	92.9	100.0	97.0	108.8	100.7	101.5	109.0	97.7	100.3	100.5
京都府	100.6	100.4	93.4	99.8	101.9	96.4	98.0	102.4	110.9	102.6	100.9	101.0
大阪府	100.3	99.8	97.5	97.3	100.1	99.0	100.0	100.6	113.5	102.7	97.6	100.4
兵庫県	101.1	100.6	101.3	97.7	102.9	106.3	98.1	100.7	103.0	102.0	103.1	101.1
奈良県	97.3	94.8	86.7	100.3	99.6	96.5	99.8	101.3	94.7	99.7	100.6	97.7
和歌山県	99.9	101.2	95.8	100.5	101.4	97.5	101.2	99.8	102.7	98.0	99.4	100.7
鳥取県	98.5	102.3	83.7	102.2	103.1	104.1	100.1	98.5	79.6	95.0	98.4	99.3
島根県	100.1	102.1	87.5	108.2	100.0	102.6	98.8	100.3	98.2	96.2	100.9	100.8
岡山県	98.4	99.2	92.7	104.2	98.9	105.8	101.2	96.3	86.4	96.8	100.9	99.0
広島県	99.2	101.6	91.9	102.9	97.3	95.7	100.4	100.0	95.9	95.6	100.8	99.8
山口県	98.8	100.4	90.2	106.1	98.0	105.5	103.5	97.7	85.7	95.7	100.1	99.8
徳島県	98.8	100.4	87.5	101.2	101.0	104.9	98.6	97.6	98.0	97.9	99.3	99.4
香川県	98.5	98.1	88.4	102.8	99.9	95.4	99.9	102.3	91.9	96.7	102.6	99.2
愛媛県	98.4	99.4	86.0	103.8	103.3	99.2	101.0	98.6	90.0	99.4	97.1	99.2
高知県	99.2	102.8	88.6	99.5	98.8	98.4	101.5	99.4	94.4	96.7	99.7	100.1
福岡県	97.7	96.5	89.6	103.6	101.1	96.1	99.6	99.0	94.1	97.9	101.3	98.6
佐賀県	97.2	96.9	87.4	105.5	95.7	102.3	99.0	99.4	94.7	92.5	98.9	98.2
長崎県	100.4	99.8	98.4	108.6	100.7	109.9	100.8	100.4	92.1	95.0	101.3	100.6
熊本県	98.2	101.2	86.9	100.3	102.5	93.4	100.2	99.7	92.6	94.8	100.1	99.2
大分県	97.4	98.6	87.5	101.7	100.0	97.7	97.2	97.7	107.3	93.4	98.1	98.6
宮崎県	96.4	97.6	88.0	98.7	102.4	93.9	99.9	98.4	92.8	92.2	97.1	97.6
鹿児島県	96.7	99.8	86.8	98.7	93.2	91.4	100.3	99.8	90.8	92.6	96.9	97.4
沖縄県	98.0	102.3	89.0	99.2	97.1	100.4	102.3	97.8	93.7	96.1	94.2	99.5

(2) 10大費目別指数

- ◆ 「住居」は、東京都が北海道の1.55倍で、物価水準の差が最大
- ◆ 「保健医療」は、山口県が大分県の1.06倍で、物価水準の差が最小

10大費目別に物価水準が最も高い都道府県と最も低い都道府県との比率^(注1)をみると、「住居」が最も高く、最も高い東京都(128.0)は最も低い北海道(82.7)の1.55倍となっている。このほか、「教育」(1.43)、「被服及び履物」(1.26)などで比率が高くなっている。

一方、比率が低いのは、「保健医療」の1.06倍で、次いで「交通・通信」(1.08)などとなっている。

比率を平成26年分結果と比較すると、「総合」では1.10から1.08と0.02ポイント縮小している。10大費目別にみると、「住居」が0.08ポイントの縮小、「家具・家事用品」が0.01ポイントの縮小、「被服及び履物」が0.08ポイントの拡大、「保健医療」が0.03ポイントの縮小、「教育」が0.01ポイントの縮小、「教養娯楽」が0.01ポイントの縮小、「諸雑費」が0.03ポイントの縮小となっている。

(表1-1, 表1-2)

(注1) 比率 = $\frac{\text{最も高い都道府県の指数}}{\text{最も低い都道府県の指数}}$

表1-2 都道府県別にみた10大費目別指数(全国平均=100)

10大費目	最も高い都道府県		最も低い都道府県		比率	比率 (平成26年分)
	都道府県	指数	都道府県	指数		
総合	東京都	104.0	群馬県, 宮崎県	96.4	1.08	1.10
食料	石川県	103.3	長野県	94.2	1.10	1.10
住居	東京都	128.0	北海道	82.7	1.55	1.63
光熱・水道	北海道	112.4	福井県	90.8	1.24	1.24
家具・家事用品	福井県	112.1	鹿児島県	93.2	1.20	1.21
被服及び履物	栃木県	115.6	鹿児島県	91.4	1.26	1.18
保健医療	山口県	103.5	大分県	97.2	1.06	1.09
交通・通信	神奈川県	103.9	岡山県	96.3	1.08	1.08
教育	大阪府	113.5	群馬県	79.3	1.43	1.44
教養娯楽	埼玉県	104.8	宮崎県	92.2	1.14	1.15
諸雑費	兵庫県	103.1	沖縄県	94.2	1.09	1.12
(参考) 家賃を除く総合	神奈川県	102.5	群馬県	97.2	1.05	1.06

表 1-3 都道府県別総合に対する 10 大費目別寄与度

都道府県	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
北海道	-0.29	-1.39	1.14	-0.03	0.35	0.00	-0.21	-0.18	-0.26	0.07
青森県	-0.46	-0.30	0.70	-0.19	-0.11	0.08	0.12	-0.23	-0.48	-0.22
岩手県	-0.78	-0.37	0.89	0.04	-0.05	0.03	-0.03	-0.33	-0.21	-0.18
宮城県	-0.96	-0.33	0.09	0.08	-0.29	0.03	-0.32	-0.05	-0.06	-0.05
秋田県	-0.88	-0.26	0.44	0.14	0.02	-0.05	-0.28	-0.45	-0.21	-0.01
山形県	0.61	-0.47	0.92	-0.23	0.31	-0.12	-0.05	0.16	-0.14	-0.14
福島県	-0.06	-0.17	0.73	0.08	0.31	-0.01	-0.13	-0.34	-0.47	0.18
茨城県	-0.25	-0.16	0.35	-0.26	-0.15	-0.06	-0.32	-0.47	-0.61	0.08
栃木県	-0.22	-0.53	-0.16	0.00	0.71	-0.02	-0.27	0.05	-0.52	-0.01
群馬県	-0.46	-0.59	-0.66	-0.23	0.10	0.10	-0.40	-0.90	-0.42	-0.12
埼玉県	0.21	0.83	-0.46	0.07	0.09	0.03	0.14	0.15	0.58	0.04
千葉県	-0.04	-0.08	0.16	0.02	-0.34	0.06	-0.05	-0.10	0.21	-0.02
東京都	0.89	2.02	-0.30	0.11	-0.08	0.07	0.39	0.42	0.51	-0.04
神奈川県	0.66	1.29	-0.04	0.02	0.03	-0.11	0.65	0.53	0.35	0.13
新潟県	0.05	-0.46	-0.26	-0.03	0.14	-0.03	-0.14	-0.14	-0.05	0.06
富山県	0.06	-0.54	-0.07	-0.03	-0.04	-0.01	-0.28	-0.50	-0.32	0.17
石川県	0.95	-0.69	0.03	0.04	0.20	0.11	0.12	0.01	-0.21	0.08
福井県	0.94	-0.60	-0.90	0.48	-0.15	0.14	-0.07	0.26	-0.58	0.14
山梨県	-0.02	-0.30	-0.36	0.00	0.16	-0.13	-0.05	-0.51	-0.25	0.01
長野県	-1.72	-0.65	0.09	-0.14	0.13	-0.09	0.07	-0.20	-0.27	0.12
岐阜県	-0.86	-1.11	-0.47	-0.24	0.10	-0.01	0.14	-0.30	-0.23	-0.03
静岡県	-0.16	-0.61	-0.19	-0.01	-0.12	0.04	0.02	-0.87	0.02	-0.01
愛知県	-0.41	-0.54	-0.20	-0.08	-0.01	0.01	-0.24	-0.13	0.10	-0.10
三重県	-0.14	-0.57	-0.11	-0.06	-0.10	-0.02	-0.12	-0.06	-0.41	-0.09
滋賀県	-0.27	-0.47	0.00	-0.13	0.43	0.04	0.26	0.34	-0.28	0.02
京都府	0.14	-0.44	-0.02	0.08	-0.18	-0.11	0.38	0.41	0.32	0.06
大阪府	-0.07	-0.18	-0.23	0.00	-0.05	0.00	0.09	0.54	0.33	-0.16
兵庫県	0.17	0.09	-0.20	0.12	0.31	-0.10	0.12	0.12	0.25	0.21
奈良県	-1.60	-0.97	0.03	-0.02	-0.18	-0.01	0.22	-0.21	-0.03	0.04
和歌山県	0.35	-0.30	0.04	0.06	-0.12	0.06	-0.03	0.11	-0.24	-0.04
鳥取県	0.68	-1.12	0.20	0.13	0.20	0.00	-0.26	-0.67	-0.58	-0.11
島根県	0.61	-0.94	0.71	0.00	0.12	-0.06	0.06	-0.06	-0.44	0.06
岡山県	-0.24	-0.55	0.35	-0.05	0.28	0.06	-0.67	-0.49	-0.37	0.06
広島県	0.48	-0.64	0.25	-0.11	-0.22	0.02	0.00	-0.14	-0.53	0.06
山口県	0.11	-0.74	0.51	-0.08	0.26	0.17	-0.42	-0.52	-0.51	0.01
徳島県	0.12	-0.87	0.10	0.04	0.25	-0.07	-0.43	-0.06	-0.24	-0.05
香川県	-0.56	-0.77	0.24	0.00	-0.25	0.00	0.40	-0.31	-0.41	0.19
愛媛県	-0.17	-0.97	0.32	0.14	-0.04	0.05	-0.24	-0.42	-0.07	-0.21
高知県	0.80	-0.82	-0.03	-0.05	-0.08	0.08	-0.10	-0.19	-0.40	-0.02
福岡県	-1.05	-0.88	0.30	0.04	-0.20	-0.02	-0.16	-0.22	-0.24	0.09
佐賀県	-0.91	-1.01	0.47	-0.18	0.11	-0.05	-0.11	-0.19	-0.87	-0.08
長崎県	-0.06	-0.12	0.72	0.03	0.48	0.04	0.07	-0.27	-0.58	0.09
熊本県	0.35	-1.06	0.03	0.11	-0.35	0.01	-0.06	-0.25	-0.60	0.01
大分県	-0.40	-1.02	0.14	0.00	-0.11	-0.14	-0.43	0.24	-0.77	-0.13
宮崎県	-0.71	-0.95	-0.10	0.10	-0.30	0.00	-0.29	-0.25	-0.90	-0.21
鹿児島県	-0.05	-1.01	-0.10	-0.30	-0.43	0.02	-0.03	-0.34	-0.86	-0.21
沖縄県	0.67	-1.19	-0.08	-0.12	0.03	0.12	-0.39	-0.23	-0.42	-0.39
最大・最小の差	2.67	3.41	2.04	0.78	1.14	0.31	1.32	1.44	1.48	0.60

表 1 - 4 平成 26 年分結果と 27 年分結果の比較（総合）（全国平均＝100）

都道府県	平成 27 年		平成 26 年	
	指数	順位	指数	順位
北海道	99.2	16	98.9	16
青森県	98.9	22	98.8	18
岩手県	99.0	20	97.9	34
宮城県	98.1	35	98.2	28
秋田県	98.5	25	97.9	34
山形県	100.8	5	100.7	5
福島県	100.1	10	100.0	9
茨城県	98.1	35	98.3	24
栃木県	99.0	20	99.0	15
群馬県	96.4	46	97.1	42
埼玉県	101.7	3	101.1	4
千葉県	99.8	14	99.6	11
東京都	104.0	1	105.3	1
神奈川県	103.5	2	103.6	2
新潟県	99.1	19	98.2	28
富山県	98.4	29	97.9	34
石川県	100.6	6	99.5	12
福井県	99.7	15	99.7	10
山梨県	98.5	25	98.0	32
長野県	97.3	41	96.9	46
岐阜県	97.0	44	97.0	44
静岡県	98.1	35	98.1	31
愛知県	98.4	29	98.9	16
三重県	98.3	33	98.4	22
滋賀県	99.9	12	99.1	14
京都府	100.6	6	101.2	3
大阪府	100.3	9	100.4	7
兵庫県	101.1	4	100.7	5
奈良県	97.3	41	97.2	40
和歌山県	99.9	12	100.1	8
鳥取県	98.5	25	98.3	24
島根県	100.1	10	99.4	13
岡山県	98.4	29	98.6	21
広島県	99.2	16	98.3	24
山口県	98.8	23	97.9	34
徳島県	98.8	23	98.3	24
香川県	98.5	25	98.0	32
愛媛県	98.4	29	97.6	38
高知県	99.2	16	98.8	18
福岡県	97.7	39	97.1	42
佐賀県	97.2	43	97.0	44
長崎県	100.4	8	98.7	20
熊本県	98.2	34	98.2	28
大分県	97.4	40	97.6	38
宮崎県	96.4	46	95.9	47
鹿児島県	96.7	45	97.2	40
沖縄県	98.0	38	98.4	22

2 地方別の物価水準

(1) 総合指数

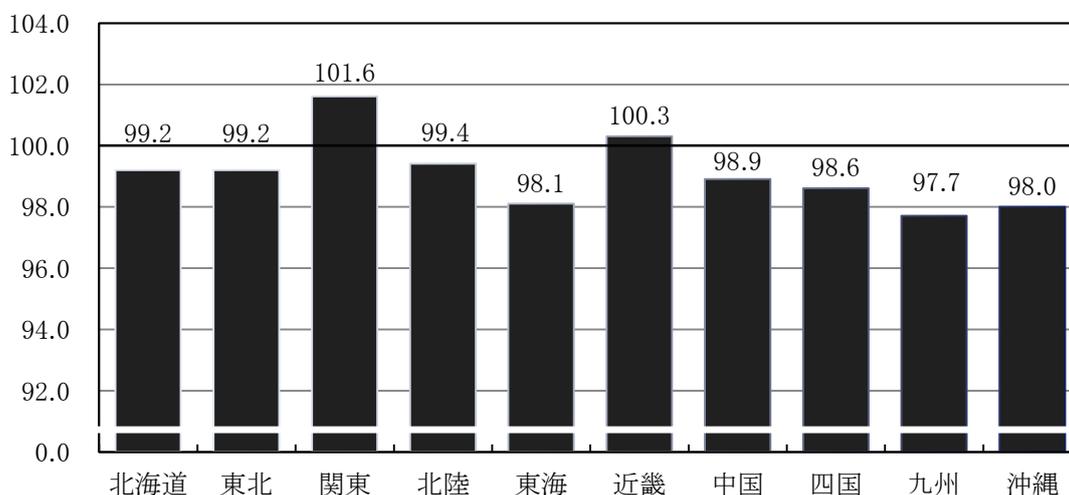
- ◆ 物価水準が最も高いのは関東地方，最も低いのは九州地方
- ◆ 関東地方の物価水準は，九州地方に比べて4.0%高い

地方^(注1)別に「総合」をみると，関東が101.6と最も高く，次いで近畿(100.3)などとなっている。一方，最も低いのは九州(97.7)，次いで沖縄(98.0)などとなっている。

物価水準が最も高い関東は，最も低い九州に比べて4.0%^(注2)高くなっている。

(図1-6)

図1-6 地方別10大費目別消費者物価地域差指数(総合)(全国平均=100)



(注1) 地方10区分

北海道	… 北海道
東北	… 青森県，岩手県，宮城県，秋田県，山形県，福島県
関東	… 茨城県，栃木県，群馬県，埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県，山梨県，長野県
北陸	… 新潟県，富山県，石川県，福井県
東海	… 岐阜県，静岡県，愛知県，三重県
近畿	… 滋賀県，京都府，大阪府，兵庫県，奈良県，和歌山県
中国	… 鳥取県，島根県，岡山県，広島県，山口県
四国	… 徳島県，香川県，愛媛県，高知県
九州	… 福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，大分県，宮崎県，鹿児島県
沖縄	… 沖縄県

(注2) $\frac{\text{高い指数} - \text{低い指数}}{\text{低い指数}} \times 100$

(2) 10大費目別指数

- ◆ 「住居」は、関東が北海道の1.37倍で、物価水準の差が最大
- ◆ 「保健医療」は、沖縄が近畿の1.03倍、「交通・通信」は、関東及び近畿が沖縄の1.03倍で、物価水準の差が最小

10大費目別に物価水準が最も高い地方と最も低い地方との比率^(注1)をみると、「住居」が最も高く、最も高い関東(112.9)は最も低い北海道(82.7)の1.37倍となっている。このほか、「教育」(1.20)、「光熱・水道」(1.16)などで比率が高くなっている。

一方、比率が低いのは、「保健医療」及び「交通・通信」の1.03倍で、次いで「食料」及び「家具・家事用品」(1.04)などとなっている。

比率を平成26年分結果と比較すると、「総合」では0.01ポイント縮小している。10大費目別にみると、「住居」が0.05ポイント、「光熱・水道」が0.03ポイント、「被服及び履物」が0.06ポイント、「保健医療」が0.01ポイントの拡大となっている一方、「食料」、「家具・家事用品」、「交通・通信」、「教育」及び「諸雑費」が0.01ポイントの縮小となっている。

(表1-5, 図1-7, 図1-8)

(注1) 比率 = $\frac{\text{最も高い地方の指数}}{\text{最も低い地方の指数}}$

表1-5 地方別10大費目別指数(全国平均=100)

地方	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費	(参考)家賃を除く総合
北海道	99.2	99.0	82.7	112.4	99.3	107.6	99.9	98.8	94.3	97.7	101.0	100.3
東北	99.2	98.4	96.5	106.0	100.2	100.2	100.0	99.2	92.9	97.7	99.3	99.7
関東	101.6	101.0	112.9	98.1	100.3	99.7	100.0	100.9	103.7	102.0	100.4	100.8
北陸	99.4	101.3	92.0	97.2	101.4	101.5	100.7	99.4	96.4	98.1	101.4	99.8
東海	98.1	98.7	91.2	97.4	98.0	99.2	100.2	99.4	91.5	99.8	99.0	98.6
近畿	100.3	99.7	97.3	98.3	100.9	101.0	99.3	100.9	108.3	101.8	100.0	100.5
中国	98.9	100.9	91.3	104.2	98.5	101.3	101.0	98.5	90.4	95.7	100.5	99.6
四国	98.6	99.9	87.2	102.3	101.2	98.6	100.4	99.5	91.3	97.9	99.4	99.3
九州	97.7	98.3	89.2	102.6	99.8	96.4	99.7	99.2	94.4	95.2	99.7	98.6
沖縄	98.0	102.3	89.0	99.2	97.1	100.4	102.3	97.8	93.7	96.1	94.2	99.5
比率	1.04	1.04	1.37	1.16	1.04	1.12	1.03	1.03	1.20	1.07	1.08	1.02
比率(平成26年分)	1.05	1.05	1.32	1.13	1.05	1.06	1.02	1.04	1.21	1.07	1.09	1.03

(※) 10大費目別に最大値及び最小値の地方に網掛けをしている。濃い網掛け(■)は最大値、薄い網掛け(□)は最小値を示す。

図 1 - 7 地方別 10 大費目別指数（住居，保健医療及び交通・通信）（全国平均＝100）

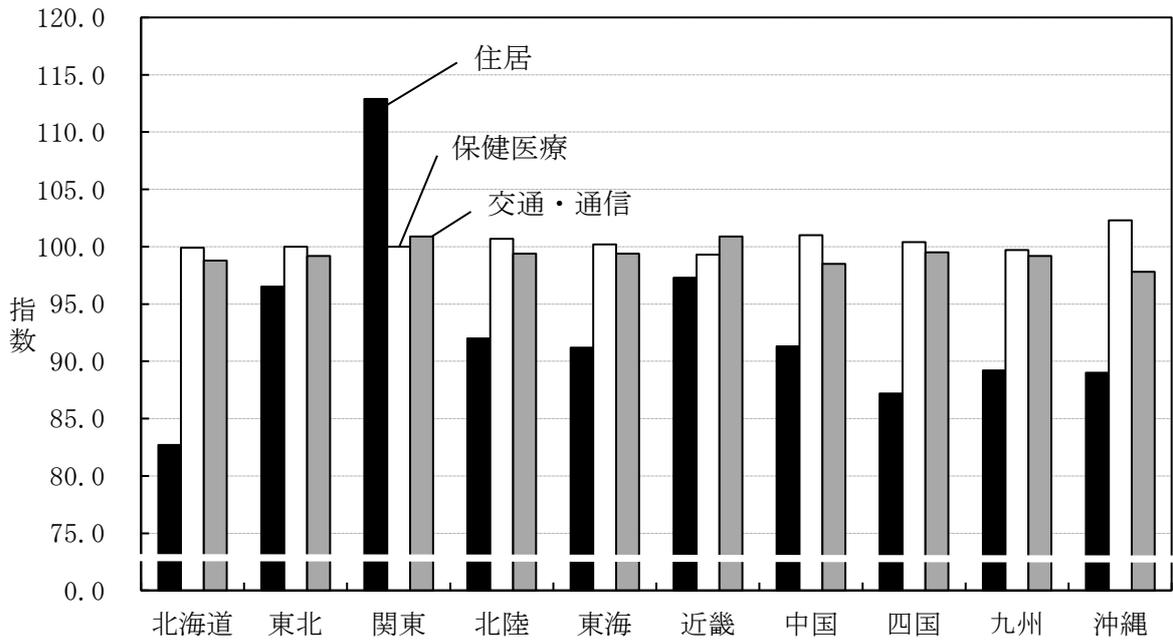
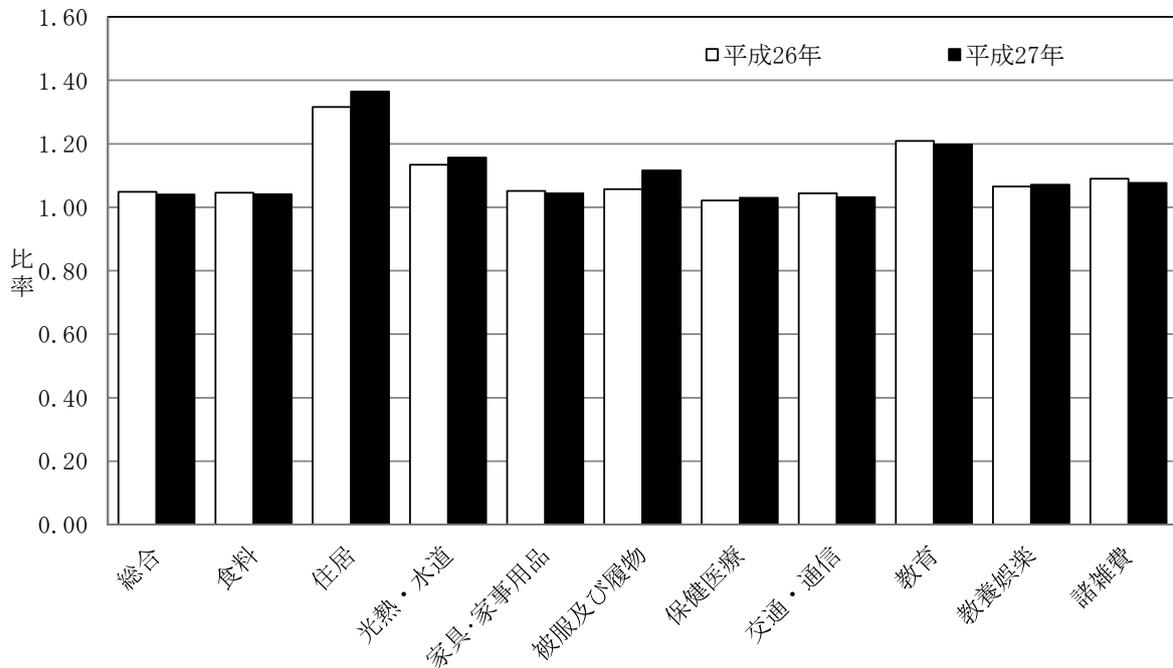


図 1 - 8 総合及び 10 大費目別指数が最も高い地方と最も低い地方の比率（平成 26 年，27 年）



地方別にみると、北海道では、「住居」が10地方の中で最も低く、「光熱・水道」及び「被服及び履物」が10地方の中で最も高い。

東北では、「光熱・水道」、「家具・家事用品」及び「被服及び履物」が全国平均より高く、「保健医療」が全国平均と同値、残り全ての費目が全国平均より低くなっている。

関東では、「光熱・水道」及び「被服及び履物」以外の全ての費目が全国平均より高く、「住居」、「交通・通信」及び「教養娯楽」が10地方の中で最も高い。

北陸では、「食料」、「家具・家事用品」、「被服及び履物」、「保健医療」及び「諸雑費」が全国平均より高く、残り全ての費目が全国平均より低くなっており、特に「光熱・水道」は10地方の中で最も低い。

東海では、「保健医療」が全国平均より高いが、それ以外の全ての費目は全国平均より低い。

近畿では、「保健医療」が10地方の中で最も低く、「交通・通信」及び「教育」が10地方の中で最も高い。

中国では、「教育」が10地方の中で最も低くなっている。

四国では、「光熱・水道」、「家具・家事用品」及び「保健医療」が全国平均よりも高く、それ以外の全ての費目は全国平均よりも低い。

九州では、「光熱・水道」以外の全ての費目が全国平均より低く、「食料」、「被服及び履物」及び「教養娯楽」が10地方の中で最も低い。

沖縄では、「家具・家事用品」、「交通・通信」及び「諸雑費」が10地方の中で最も低く、「食料」及び「保健医療」が10地方の中で最も高い。

(表1-5, 図1-9)

3 都市別の物価水準

◆ 物価水準が最も高いのは川崎市、最も低いのは前橋市

都市^(注1)別に「総合」をみると、川崎市が104.4と最も高く、次いで東京都区部(104.3)、横浜市(103.9)、相模原市(103.6)などとなっている。

一方、最も低いのは前橋市(96.6)で、次いで、奈良市、佐賀市(共に96.9)、宮崎市(97.3)、長野市(97.4)などとなっている。

物価水準が最も高い川崎市は、最も低い前橋市に比べて8.1%^(注2)高くなっている。

(図1-10、表1-6)

(注1) 都市とは都道府県庁所在市(東京都については東京都区部)及び政令指定都市(川崎市、相模原市、浜松市、堺市及び北九州市)のことである。市の区域は、平成26年6月11日現在の区域による。

(注2)
$$\frac{\text{高い指数} - \text{低い指数}}{\text{低い指数}} \times 100$$

図1-10 都市別消費者物価地域差指数(総合)(全国平均=100)

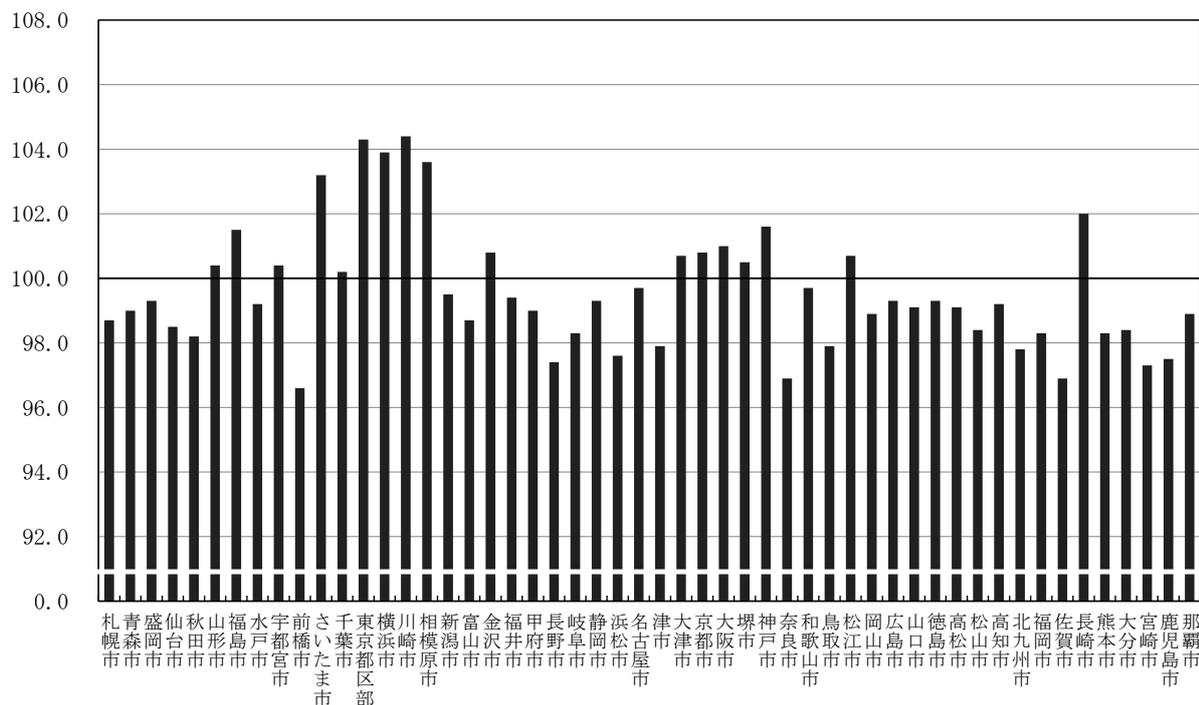


表1-6 都市別指数（総合、食料及び家賃を除く総合）（全国平均=100）

都市	総合	食料	(参考) 家賃を除く総合	都市	総合	食料	(参考) 家賃を除く総合			
都道府県庁所在市	札幌市	98.7	99.9	99.7	都道府県庁所在市	神戸市	101.6	101.4	101.5	
	青森市	99.0	98.9	99.6		奈良市	96.9	93.8	97.3	
	盛岡市	99.3	99.0	99.7		和歌山市	99.7	100.4	100.4	
	仙台市	98.5	97.1	98.6		鳥取市	97.9	101.1	98.9	
	秋田市	98.2	97.2	98.6		松江市	100.7	103.2	101.3	
	山形市	100.4	101.3	101.1		岡山市	98.9	100.8	99.6	
	福島市	101.5	102.9	102.1		広島市	99.3	101.4	100.0	
	水戸市	99.2	99.8	99.7		山口市	99.1	100.8	100.2	
	宇都宮市	100.4	101.5	100.8		徳島市	99.3	102.9	100.3	
	前橋市	96.6	97.3	97.2		高松市	99.1	98.5	99.6	
	さいたま市	103.2	101.4	102.3		松山市	98.4	99.7	99.5	
	千葉市	100.2	100.6	100.2		高知市	99.2	103.0	100.1	
	東京都区部	104.3	103.2	102.0		福岡市	98.3	96.9	99.3	
	横浜市	103.9	102.9	102.7		佐賀市	96.9	96.4	98.0	
	新潟市	99.5	101.0	99.7		長崎市	102.0	101.8	101.9	
	富山市	98.7	101.9	99.4		熊本市	98.3	101.7	99.5	
	金沢市	100.8	103.5	101.4		大分市	98.4	100.2	99.6	
	福井市	99.4	102.7	100.1		宮崎市	97.3	99.8	98.1	
	甲府市	99.0	99.9	99.6		鹿児島市	97.5	101.0	97.9	
	長野市	97.4	94.5	98.2		那覇市	98.9	103.9	100.0	
	岐阜市	98.3	98.5	99.2						
	静岡市	99.3	99.8	99.1						
	名古屋市	99.7	99.4	99.8		政令指定都市	川崎市	104.4	101.5	102.6
	津市	97.9	99.1	98.5			相模原市	103.6	104.5	102.9
	大津市	100.7	100.2	101.2			浜松市	97.6	98.7	98.1
	京都市	100.8	100.6	101.0			堺市	100.5	100.9	100.8
	大阪市	101.0	99.9	100.6			北九州市	97.8	98.3	98.6

【コラム】「総合」指数の全国平均との差の大きさに影響している主な費目について

ここでは、都道府県別「総合」指数と全国平均（=100）との差の大きさに影響している主な費目をみるため、都道府県別「総合」指数及び10大費目別寄与度^(注1)を用いた分析を2つの観点から行う。

まず、費目ごとに、寄与度が最大となる都道府県と最小となる都道府県の差（以下「寄与度の差」という。）を算出すると、「住居」（3.41）が最も大きく、次いで「食料」（2.67）、「光熱・水道」（2.04）などとなっている。（表1-7）

なお、寄与度の差の大きさは、費目ごとの消費支出に占めるウエイト及び物価水準の差によって決まる。「食料」は、ウエイトが10大費目の中で一番高いこと、「住居」及び「光熱・水道」は、ウエイトが比較的高いことに加え、表1-2から分かるように、物価水準の差が比較的大きいことにより、寄与度の差が大きくなっていると考えられる。

表1-7 10大費目別寄与度の差及びウエイト全国計（万分比）

	住居	食料	光熱・水道	教養・娯楽	教育	交通・通信	被服及び履物	家具・家事用品	諸雑費	保健医療
寄与度の差	3.41	2.67	2.04	1.48	1.44	1.32	1.14	0.78	0.60	0.31
ウエイト	731	2,989	865	1,202	391	1,715	498	412	678	519

次に、都道府県別「総合」指数と全国平均との差及び費目ごとの寄与度の相関係数^(注2)を算出してみると、「住居」（0.78）が最も大きく、次いで「教育」、「教養娯楽」（共に0.64）、「食料」（0.61）、「交通・通信」（0.57）などとなっている。（図1-11）

以上を図にすると、図1-12になる。同図の位置関係からも分かるとおり、「住居」及び「食料」は他の費目と比べて寄与度の差が大きく、相関もみられることから、これら2費目は、都道府県別「総合」指数と全国平均との差の大きさに影響を与える主な費目であると考えられる。

(注1) 寄与度は、都道府県別「総合」指数と全国平均との差に対して、各費目がどれだけ影響したかを示したものである。

(注2) 相関係数は、二つの指標の間にある線形な関係の強弱を測る指標である。相関が強いと相関係数の絶対値が大きくなる。相関の強さの判断には、実際の分布なども確認する必要がある。

図1-11 10大費目別都道府県別散布図

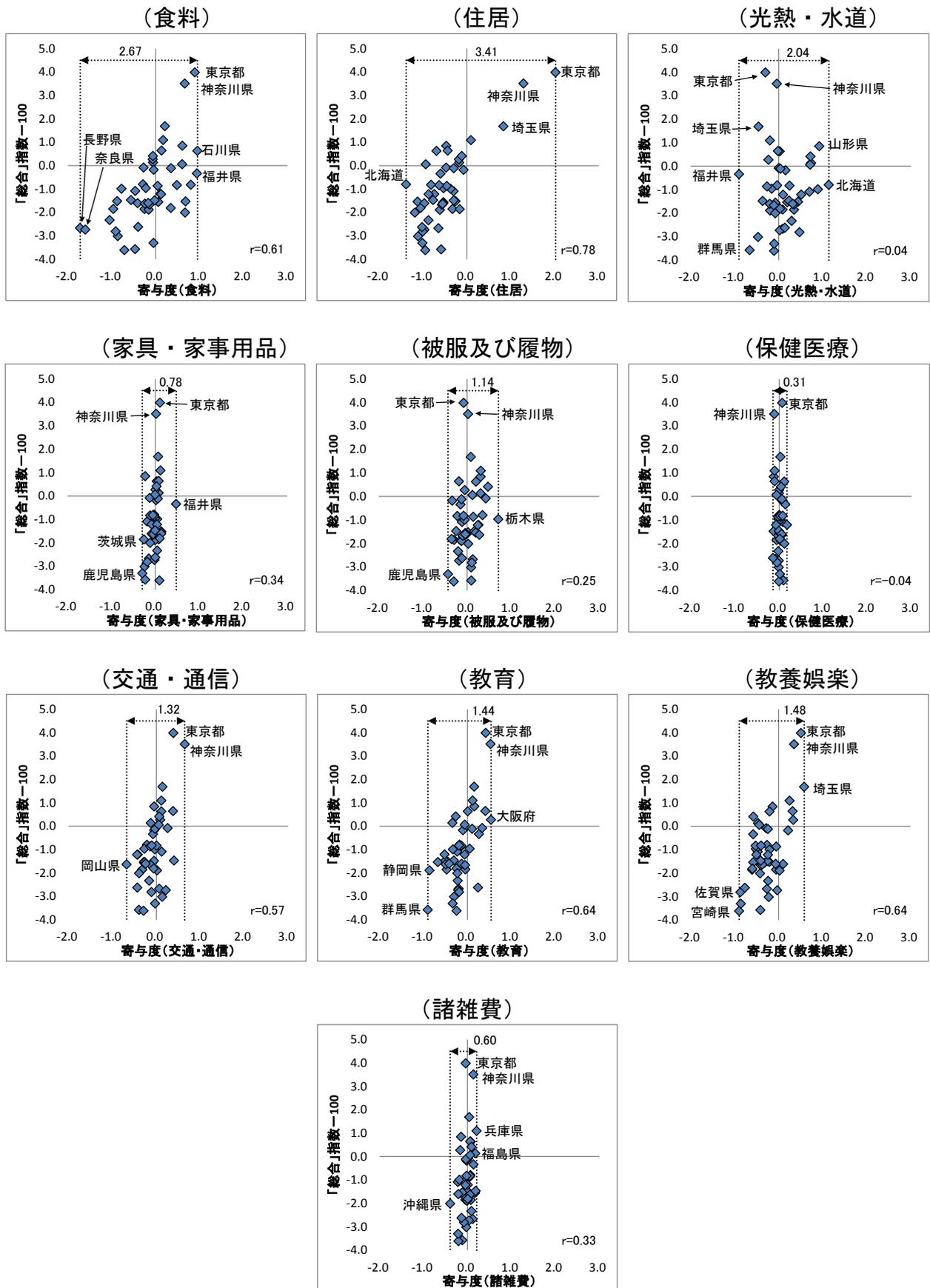
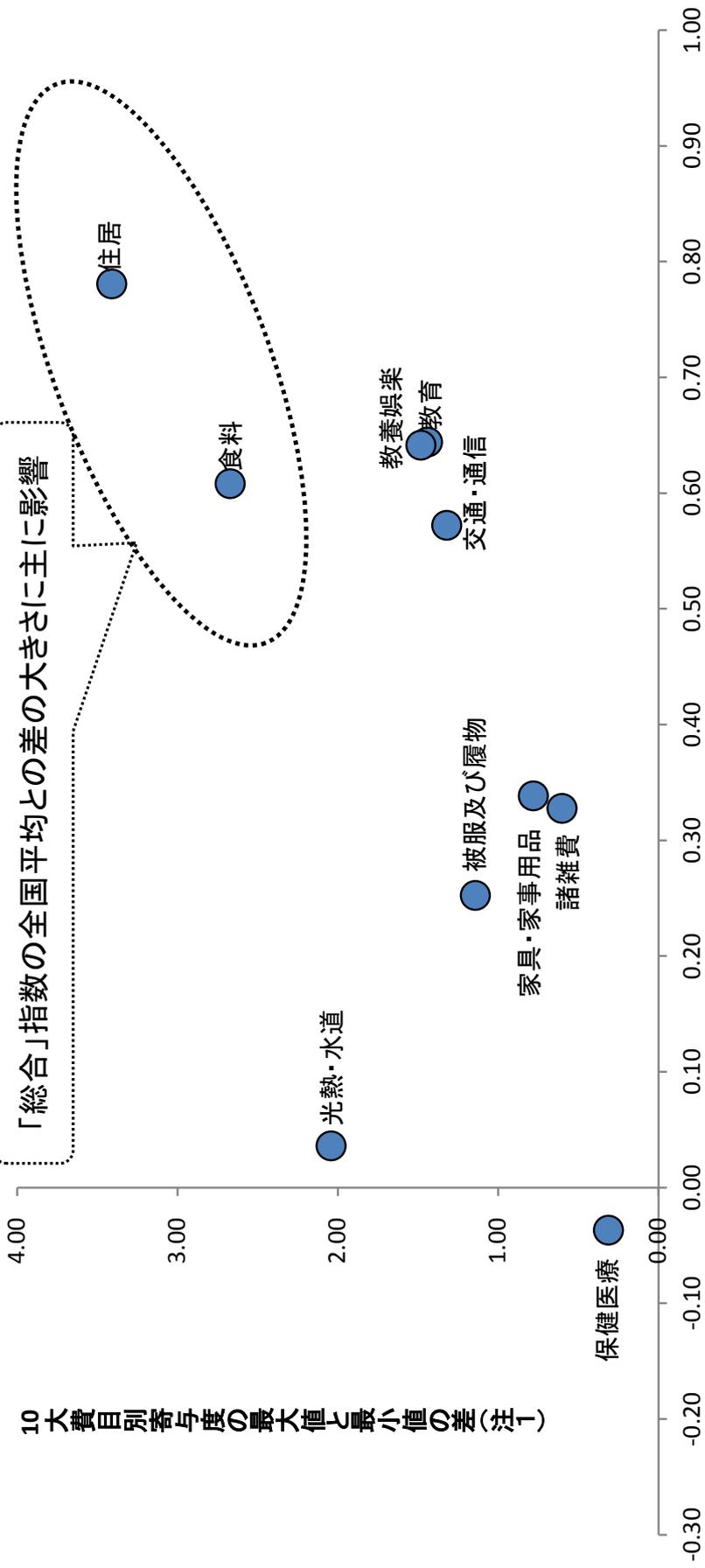


図1-12 10大費目別散布図



都道府県別「総合」指数の全国平均との差及び10大費目別寄与度の相関係数(注2)

(注1) 寄与度の都道府県間の差をみるため、寄与度が最大となる都道府県と最小となる都道府県の差を算出
 (注2) 「総合」指数の全国平均(=100)との差と各費目の寄与度の相関係数をみるため、「総合」指数から100を引いた値と寄与度との相関係数を算出